

会 議 録

1	会議名称	第 1 回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
2	日 時	平成 2 7 年 8 月 1 0 日（月）午後 7 時 3 0 分から
3	場 所	生涯学習センターさくらドーム 2 1 2 階 視聴覚室
4	出席委員	笹山委員、高松委員、宇野委員、津田委員、上野委員、宮本委員、中西委員、西本委員、杖村委員（代理：久志野氏）、坂本委員、谷口委員、山田委員、戸部委員、山加委員、元屋委員、千葉委員、今江委員、昔農委員、守田委員（欠席：北橋委員）
5	事 務 局	松栄企画振興課長 <small>（総合計画担当）</small> 、金田総務課長補佐、松浦企画振興課長補佐、南谷企画振興課主任、松本財政課主任、守田企画振興課主任
6	議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 町長あいさつ 3 委員紹介 4 会長互選 5 議 題 <ol style="list-style-type: none"> （1）まち・ひと・しごと創生の概要について （2）これまでの本町の取り組みと現状について （3）地方創生に関するアンケート調査の結果について （4）推進会議の運営方法について （5）今後のスケジュールについて （6）次回開催日程について 6 そ の 他 7 閉 会
7	議 事 町 長	<p><開会></p> <p><u>1 町長あいさつ</u></p> <p>本日は、第 1 回目のまち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開催申し上げましたところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>人口減少あるいは少子化対策につきましては、国において平成 2 年の 1.57 ショック以降、平成 6 年のエンゼルプランの策定、平成 15 年の少子化社会対策基本法の制定、あるいは次世代育成支援対策推進法の制定など、それぞれ計画を立て、法律を整備して取り組んでまいりましたが、高齢化対策に追われ、実効ある対策が取れないまま現在に至っております。</p> <p>本町におきましても、少子高齢化が急速に進んでおり、本年 4 月現在の人口は 13,984 人で、出生数では昨年度で 68 人、今年度は 4 月から本日までで 19 人しか生まれておらず、50 人を下回るのではないかと推計しております。</p> <p>また、このまま人口が減り続ければ、推計ではございますが、2060 年には 5,594 人まで減少するという事となっております。</p>

これを回避すべく、町では現在、町版の長期人口ビジョンを踏まえ、住民の皆様をはじめ、産官学金労言あらゆる分野に携わっておられる方々の思いを結集した総合戦略を策定したいと考えております。

今回、皆さんにお願いしたいのは、この町の将来像をどのようなものにするか、あるいはどのような姿にすれば住民の幸せにつながるのか、この地域に相応しいまちづくりのために斬新なご意見を賜ればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

2 主な意見

津田委員

町版の総合戦略を検討していくにあたり、基本目標は、国と同じようなものになっているかと思うが、これから検討していく具体的施策についても、国の政策パッケージとリンクさせるものを考えていくのか。

事務局

基本目標は、国と同じものを考えておりますが、その基本目標を達成するために町に適したものを作り上げていくため、必ずしも国の政策パッケージを意識する必要はございません。

久志野氏
(杖村委員代理)

地方創生に関して、某銀行が行っている取り組みを紹介したい。

地方創生のキーコンセプトとして一番大事なのは、地域全体の生産性の向上だと考える。

これを推進していくためにはICTの推進が必要であると考えます。

「魅力的なまちづくり」とは、ワーク・ライフ・バランスがとれている、教育環境や医療介護、外国人を含む観光客向けのICTの推進、創業しやすい風土、女性が働きやすい職場、行政手続きの利便性などが「魅力的なまち」であると考えます。

自治体には、自治体クラウドを推進し、システム部分の経費を削減し、徹底的に効率化を図ってもらい、効率化によってあふれた「ひと・もの・かね」を住民サービスに向けてもらうということを提案したい。

某銀行機関自身も徹底したIT化とペーパーレス化により、5時6時に帰宅出来るようになった。

早い時間に帰宅出来るようになれば、共働きの家庭でも、夫婦で子育て等に取り組むことが出来るようになる。

そうなれば企業にとっても生産性の向上により利益が生まれるとともに、育児休暇や時短就業というものも出来る。

そういった企業が増えれば、町から都会へ出て行った若い方、特に優秀な女性が集まる。

某銀行では、こうしたノウハウを地域全体に広めるため、コンサルティング業務をしている。

また、某銀行が取り組むイーコマースとして、地域版の楽天のような「れじおん」というものがある。

地域版であるため、地域の業者や住民が得をするようにという取り組みで

<p>津田委員</p>	<p>あり、高齢者の買い物支援につながるとともに中小の小売業の支援にもつながると考える。</p> <p>また、日本海側で不足している創業支援について、某銀行では創業支援の専門チームを7月に起ち上げたところであり、創業を考えている方に寄り添ってトータルでサポートしていきたいと考えている。</p> <p>まちづくりというのは、町全体が消費をして、お金が流れる仕組みを作っていくことで、その町に住んでいる人達が豊になるようにというのが本当のところではないのかと思っている。</p> <p>町の良いところでは、「豊かな自然」というところが多いが、この町はどんな宝を持っているのかを出していくことが必要である。</p> <p>これから誰がリーダーになるのかというところで、よく言われる「3バカ」という「若者」、「余所者」、「馬鹿者」が大切だと思う。</p> <p>ここに一般で参加されている方は若い人ばかりなので、この人達が中心となっていくのが一番良いと思う。</p> <p>若い人たちが動けば、年寄が後ろからついていくと思うし、アンケートを見ていたら、町の人たちもそのように思っているのではと感じている。</p> <p><閉会></p>
<p>8 資 料</p>	<p>資料1 宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議要綱</p> <p>資料2 まち・ひと・しごと創生の概要について</p> <p>資料3 これまでの本町の取り組みと現状について</p> <p>資料4 地方創生に関するアンケート調査の結果について（速報版）</p> <p>資料5 推進会議の運営方法及び今後のスケジュールについて</p>